

2 学期始業式に贈る校長メッセージ (8, 24)

夏休みに入ってからすぐに、長かった梅雨が明け、その後、身にこたえる猛暑が続きました。皆さん、体調は大丈夫ですか。

終業式の翌日が日曜日で、夏季休暇突入後最初のサザエさんがあり、あっという間に四回の放映を数え、本日、2 学期の始業式を迎えました。夏休みの初めの 1 週間の補習・補講期間に登校された方にとっては、夏休みは正味 2 週間。慌ただしい日々の連続であったと思います。昨日は、二十四節気の一つ、暑さが収まり涼風が吹き始めると言われる「処暑」でしたが、まだ初秋の趣きには程遠い気候です。新型コロナウイルスへの感染防止に努めつつ、熱中症対策にも気を付けて、2 学期の豊かな学びへの歩みを開始しましょう。

皆さんは、どのような夏季休暇を過ごされたでしょうか。自分と静かに向き合うひとときを持つことはできましたか。

夏休みに入ってからすぐ、かつて光塩の中・高等科で理科科の教員をしていらした方から、信州の安曇野よりレターパックが届きました。『最初の質問』という、詩人の長田弘氏の詩といせひでこ氏の絵による、言葉と絵画の花束のような絵本の贈り物で、自然の慈しみの中で生活を営んでいらっしゃる先生の姿が髣髴と浮かびました。光塩の中等科入試で出題させていただいた長田弘氏の文章を想起しつつページを捲っているうちに、『最初の質問』という絵本のタイトルに心惹かれ、パスカルが『パンセ』の中に記していた「人は今を生きることができるのか」という問いかけを思い起こしました。『パンセ』の著者パスカルは、数学者・科学者であるとともにキリスト教神学者でもあり、「人間は考える葦である」という名言を残しています。現在、新型コロナウイルス感染症パンデミックの中、今迄の常識が通用しない「新常态（ニューノーマル）」の模索が始まっています。「今を生きる」とは、どのような生き方をすることか、パスカルの名言を励みに一緒に考えてみましょう。

「今」という時は、例えば、明日の授業の予習や来週提出のレポート執筆等、将来のための準備に費やされることが多いです。中等科の皆さんでしたら高等科での学びの基盤作り、高等科の皆さんにとっては、一大目標である大学受験に向けてのステップアップの連続が「今」と言えるかもしれません。「今」は過去の積み重ねによって構築され、未来は過去と現在の集積によって築かれて現実化していると考えれば、「今」の一瞬一瞬を疎（おろそ）かにすることはできず、「今」のかけがえのなさが身に沁みます。

しかし一方で、「今」を未来のための準備期間に辛抱して費やしているだけだとしたら、「今」の存在そのものが勿体ないように思えます。未来を映す鏡としての「今」であると同時に、「今」、この時を最大限に輝かせることが大切です。高等科での学びの基盤作りでもある中等科時代の日一日を楽しみ、また大学受験に向けてのステップアップの日々もワクワク感溢れる時でありますように！皆さんが、納得できる「今」の充実に裏打ちされた「全幅の人生」を過ごしてくださることを切望しています。

さて、八月は、広島原爆忌（6日）・長崎原爆忌（9日）もあり、いのちの尊さを噛み締め、平和を希求し祈る日々が続いています。カトリック教会でも、1982年に8月6日から15日迄の十日間を「日本カトリック平和旬間」と決めました。「日本カトリック平和旬間」は、1981年に「平和の使者」として日本を訪問された教皇ヨハネ・パウロ二世が広島で発信された平和メッセージ「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」を具体化したものです。また、昨年、来日された教皇フランシスコは、長崎・爆心地公園での「核兵器についてのメッセージ」において、「国際的な平和と安定は、相互破壊への不安や壊滅の脅威を土台とした、どんな企てとも相いれないものです。むしろ、現在と未来の人類家族全体が、相互依存と共同責任によって築く未来に奉仕する、連帯と協働の世界的な倫理によってのみ可能になります。」（『すべてのいのちを守るため 教皇フランシスコ訪日講話集』カトリック中央協議会刊 所収）と語られ、世界平和への道筋を示されました。

新型コロナウイルスパンデミックで混沌とした状況が続く今だからこそ、世界の叡智を集め、協働して解決の糸口を探ることが肝要です。分断の種が尽きない世界情勢ですが、日常の中で「壁ではなく橋」を築くことを心掛けたいです。但し、新型コロナウイルス感染症防止のためにソーシャルディスタンスを保たなければならない生活様式においては、橋を築くような人と人との繋がりを持つことは、他者との円滑なコミュニケーションに不可欠な挨拶でさえも、声を出すことが制限され、難しいのが実情です。それでも、アイコンタクトを使ったり、ボディランゲージを駆使して意思表示をしたりして、積極的に他者と温かく繋がる工夫を凝らしてみてください。ホスピタリティ溢れる行動をとることで、新たな信頼関係を構築していけると確信しています。

加えて、分断を排し、他者と繋がるために大切な更なるポイントは、「寛容 Tolerance」です。この言葉は、一学期からお話している「塩 SALT」を頭文字に持つキーワードの一つです。私が「寛容」を初めて意識したのは、1985年の春にバチカンを訪ねた折、様々な国の方々が共に祈っている姿を目の当たりにした時でした。国家も民族も、文化の差異も超えて、敵・味方なく神様の前に額（ぬか）づく姿勢は、相手を善き友として全てを受容する「寛容」の精神を象徴していると思い至りました。また、20年ほど前、漢方と気功を学んでいて、八百万の神に関心を持ち、滝行への参加を思い立ちました。当時の校長シスター太田に相談したところ、いとも簡単に「いってらっしゃい！」と御許可をくださり、カトリック学校の教員が「滝行に行くなんて！」と叱られるとばかり思っていた私は、とてもびっくりし、同時にカトリックという宗教の懐の深さと寛容さに感銘したのです。

これらの体験から、「寛容」を旨として生きる時に不可欠なのは、認識的想像力だと考えるようになりました。ただイマジネーションを働かせるだけの想像ではなく、相手がどのような立場・心境・状態にあるかを慮（おもんば）か）って行動し言葉を発することが大切なのだと、切に感じたのです。この認識的想像力は、現在のような混沌とした不透明な時代のリスク回避にも力を発揮するはずです。

そして、認識的想像力を培うために必須なのが、専門領域や興味ある分野を掘り下げたの基盤作りと、多くの知識・情報を繋いで知恵に昇華する教養の力です。その力を以って、宇宙船地球号の乗組員として「地球という家」の環境を守り、平和を次世代に繋いでいくことが、私たちの世代の役割です。平和を妨げる分断を防ぐには、わかるはずという甘えを捨てて、懇切丁寧な説明と合意形成のための絶えざる対話の実践が望まれます。

他者との対話にプラスして、自己内対話、思考の鍛錬もお勧めです。そこで、この度、「思考の道場 TANUKI レポート コンテスト」を実施することに致しました。新型コロナウイルス感染症パンデミックによって様々な行事ができなくなり、寂しい限りですが、新たな試みとして「MCA」「CCA」に倣って、有志対象に企画を立ち上げます。新型コロナウイルスパンデミックによる休校中に校長メッセージで提示した課題の中から、次の問いに取り組み、B5 の用紙一枚に考えをまとめ、担任の先生に提出してください。自分の頭でしっかり考え思考力を高める機会になることを願っています。締め切りは9月30日です。

☆「<コロンブスのアメリカ大陸>の後に続く二字熟語は？」

その熟語を考えた根拠を記し、<コロンブスのアメリカ大陸□□>について考察してください。力作を期待しています。

毎年、2学期始業式のメッセージの結びは、体育祭の話題が定番だったと記憶していますが、今年は体育祭の平常通りの開催ができず残念至極、申し訳なく存じます。応援合戦発表会やミニスポーツ大会等、今後体育科の先生方や体育部の皆さんと相談しつつ、プランニングしていく予定です。本日は、体育祭の大団円、皆で心をつなげて平和を願い続けてきた「PX（キリストの平和）」の中の、アシジの聖フランシスコの平和の祈りを、心を合わせて唱えたいと思います。アシジのフランシスコは、動物たちとも心を通わせることができたと言われ、清貧に生きた「平和と自然」の聖人です。皆さんは心の中で祈りください。

神よ、私をあなたの平和の道具としてお使いください。

憎しみのあるところに愛を、

いさかいのあるところにゆるしを、

分裂のあるところに一致を

疑惑のあるところに信仰を、

誤っているところに真理を

絶望のあるところに希望を、

闇に光を、

悲しみのあるところに喜びをもたらすものとしてください。

慰められるよりは慰めることを、

理解されるよりは理解することを、

愛されるよりは愛することを、

私が求めますように。
私たちは、与えるから受け、許すから許され、
自分を捨てて死に、
永遠のいのちをいただくのですから。

酷暑の中の2学期の始まりです。オンライン光塩祭の開催も心待ちにしています。

体調管理に気を付け、「すべてのいのちを守る」ことを心に刻み、豊かな学びに向けてのチャレンジを続け、「今、ここ」を全幅の人生で歩んでください。想像力と創造力を発揮して、御自分の時間と人生をダイナミックにデザインすることができますように。

では、2学期の初日、今日も一日、ファイト！です。